



セミナー報告

令和7年度 男女共同参画セミナー②

『DVの被害者・加害者にならないために』

開催日 令和7年1月18日(土) 10時~12時

会場 ルミナス 第1・2・3会議室

講師 原 健一さん

(NPO法人DV対策・予防センター九州 理事長)



<講師プロフィール> 1998年、任意団体「メンズサポート福岡」を設立。これまでの男性性にとらわれた生き方よりも自分らしく生きることを考える男性メンバーのみのグループを主宰。同時に相談電話も設置し、自らのDVに悩む男性、DVに苦しむ女性、ストーカー被害者からの相談などを受けてきた。

2001年、DV加害者男性に対して非暴力ワークプログラムを行う「メンズサポートふくおか」を設立。現在もDV加害者を自認する男性からの定期面談を行っている。福岡県内の精神科病院ではDV被害者女性を支援するために「DV外来」を立ち上げ、同時に心理士としてカウンセリングにあたる。

2003年「熊本県DV加害者研究チーム」研究員を経て、2005年より高校生向け「DV未然防止教育」の授業を担当。これまで佐賀県内外含め1100校以上、約12万人以上の生徒に若年層における男女間の暴力の実態を伝える。

「(前)内閣府 男女共同参画会議 女性に対する暴力に関する専門調査会委員」等、国に関わる多くの委員を歴任。

《セミナー概要》

DV被害者・加害者からの相談や支援に長年携わってこられた講師から、DV被害者支援とはどのようなものか、加害者と言われる人たちの行動特性や子どもに与える影響について、お話していただきました。

まず初めに、DVは「ジェンダーに基づく暴力」「配偶者や恋人など親密な関係にある又はあった者から振られる男女間の身体的・精神的・性的な暴力」であり、心身に有害な影響を与える深刻な人権侵害であること、歴史的・統計的にも被害者の多くは女性で、DVは男女共同参画を阻害する要因であることなどを話されました。また、DV防止法は、加害者から離れて被害者の安全を確保し、生活再建(自立)を支援することを目的に取り組まれているが、被害者が加害者から離別(別居・離婚)した後に連絡が途絶えたり、養育費の未払いやその他の理由で生活困窮者となっているケースは多くあることから、被害者への長期的な自立支援の強化、現場で働く相談員の専門性の向上、そして行政と民間団体が連携・協働して取り組むといった点が非常に重要な課題であると提唱されました。さらに、DVの本質は相手を支配しようとする一方的なコントロール(暴力)で、加害者は暴力の正当化・問題のすり替えで相手を常にコントロール状態にする。被害者は、自分が悪いから相手を怒らせてしまうなどと思い込まれてしまい、被害を受けながらも誰にも相談せず、別れたくても別れられない、暴力のサイクルから抜け出しにくくなる傾向にある。加えて、子どもはどのようにDVに巻き込まれているかについて、親の暴力を目の当たりにする「面前DV」を取り上げ、親が受ける暴力の恐怖・緊張を感じることで、心身ともに深く傷つき、将来にわたる深刻な悪影響(脳へのダメージ、トラウマ、無力感、罪悪感など)、暴力の連鎖や問題行動につながるケースは少なくないことを言及されました。最後に「被害者も加害者も傍観者も出さない、将来の加害者を生まない。」「DVのない社会にするには個人の意識と社会がどのように変わる必要があるのか考えていくことが大事です。」と話を締めくくられました。

<受講生の感想> ※一部抜粋

- ・ DVについて、きちんと整理して話していただき、とても学びとなった。学習することは大切であると、つくづく思う。
- ・ DVがこれほど深刻な問題になることが、よくわかりました。また、サポートが効果的だったら、治療につながるということもわかり、少しほっとしました。この問題は、しっかり取り組んでいかなければならない問題なのだと強く感じました。
- ・ DVの話、とてもわかりやすく、心に残りました。通報は本人の許可がいる ←知りませんでした。 疑いだけで通報していいと思っていました。
- ・ とても貴重な話でした。自分の人生、夫や子ども、孫について考えさせられます。
- ・ 幸い、私自身や両親にDVが起こるようなことは今のところありません。ただ、いつ、このようなことがまわりの人に起こるかは（自分を含め）わかりません。その時に少しでも何かできるよう、知識を得たいと思い、参加しました。 すばらしいお話、ありがとうございました。
- ・ 今まで自分には何もなかったと思っていたが、いろいろ聞いて、心あたりがある事を知りました。
- ・ 先生の貴重なお話を聞くことができて（自分の体験も語っていただき、ありがとうございます）、貴重なよい時間を過ごすことができました。
- ・ 実体験されたことをところところ話してくださり、より心に届きました。様々な要因がからんだ問題ですが、やはり子どもに与える影響が重大だということが強く印象に残りました。ありがとうございました。
- ・ 身近にDVがないのでよくわからないです。自身の幸福を感じています。
- ・ 現在のDV問題の複雑さが判った。
- ・ DVは単純な事ではなく、身体的な面や精神的な面にまで関わってくる大変な病気（？）だと思いました。
- ・ DVを見た子どもに、後にとても影響が出るということに驚きました。
- ・ お話を聞いて、日本という国は、女性がDVを受けやすい文化的・社会的構造があるなあとというのが感想です。先生のお話がとても分かりやすく、詳細に富み、よいお勉強となりました。有難うございました。

